

令和5年度 授業改善推進プラン 第1学年

小平市立小平第三小学校

各教科及び 道徳	学力調査等の結果分析 児童の学習状況	指導上の課題	改善の計画	プランの評価方法
国語	- 音を楽しみながら音読したり、動作化して心情を理解したりして、音読に慣れることができた。 「話すこと・聞くこと」では、自分の考えを発表することに苦手を感じている子が多い。 - 拗音、促音や助詞「は・を・へ」の表記の定着に課題があることが分かった。	- ひらがなを読んだり書いたりする能力の定着にばらつきが大きい。 - 自分の考えをもち、伝え合ったり、書いて表現したりする場があまり設定できていない。 - 授業の中で、演習問題を解く時間をあまり確保することができていない。	- モジュールの時間や家庭学習等を活用して、継続的に基礎基本の定着に取り組ませる。 - 小集団での交流などを授業に取り入れる。 - 単元ごとに身に付けさせたい資質・能力を明確にし、ワークシートなど適切な教具・教材を工夫する。 - 音読を繰り返し「は・を・へ」の表記を正しく理解させると共に、学習者用端末等を用いて演習問題を解く時間を確保するようにする。	- ワークテストやプリント等を活用し、80%以上正答しているかで評価する。 - CRT テストの結果で評価する。 - ワークシート等への記述や小集団の観察から、自分の考えをもったり、伝えたりする能力を評価する。 - 普段のノートから、正しく拗音、促音や助詞「は・を・へ」を使って書いているか評価する。
算数	- 数の順序や構成については、概ね理解できている。 - たし算、ひき算の計算は指や具体物を使わずにできる児童、具体物を使ってできる児童、具体物を使っても難しい児童と、大きな差がある。 - 問題文に対応して立式すること、答えを記述することが苦手な傾向がある。	- 基礎基本の定着に大きな差がある。 - つけ加えた数や2量の差を求める場合にひき算を適用することへの理解が難しい児童が見られた。 - 文章題において、正しく立式し、適切な単位を書くことに課題がある。	- モジュールの時間や家庭学習等を活用して、継続的に基礎基本の定着に取り組ませる。 - 文章題の中からキーワードを見つける指導を行い、具体物や半具体物を効果的に用いて、問題場面を視覚的に捉えやすくする。 - ワークシートやカードを使う活動を日常的に取り入れることで計算力を定着させる。 - 教科書の問題やプリントでの習熟に加え、計算ドリルや学習者用端末のデジタル算数ドリルで、更なる習熟を図る。	- ワークテストやプリント等を活用し、80%以上正答しているかで評価する。 - 東京ベーシックドリルの診断テストで、80%以上とれているかで評価する。
生活	- 観察カードを書くことで、気付いたことや考えたことを絵や文で表現する経験ができています。 - 観察カードに気付いたことや考えたことを、文で表現する際には、できている子とできていない子がいる。	- 視点を定めて観察することが難しい児童が見られた。 「すごい」などの言葉で気付いたことを書く児童もあり、観察における文の書き方に差が見られた。	- 観察の際、五感を基に、文や絵で表現し新たな気付きの視点を養う。 - 自分で観察したことや調べたことで感じたことや、気付いたことを発表する機会を設定する。 - 学習者用端末のカメラ機能を使い、写真を撮って、細かい所までじっくりと観察できるようにする。	- 活動の振り返りをその都度行い、自分の成長をみつめることができたかで評価する。 - 活動した内容をまとめ、発表することができたかどうかで評価する。 - よく見て観察し、絵を描く際には、色分けがきちんとできているか評価する。
音楽	曲に合わせて情景を思い浮かべたり、身体表現をしたりし	鍵盤ハーモニカの指導を行った	歌声や発音に気をつけながら歌うために、歌詞を音読させる。	曲に合わせて身体表現をしながら、リズム打ちすることができ

	て音楽を楽しんでいる。 ・リズム遊びを繰り返し行い、1小節の中でいろいろなリズムを打つことができるようになった。 ・鍵盤ハーモニカの基本の練習を行った。	が、技能差が出てきている。	・視覚教材や教え合いを取り入れて、鍵盤ハーモニカの運指の練習を行っていく。	たかどうかで評価する。 ・鍵盤ハーモニカの指づかいを身に付けられたかどうかで評価する。
図画工作	・はさみなどの道具の使い方を学習し、安全に使っている。 ・自分の作品を作り上げることに楽しんで取り組んでいる。	・作品を鑑賞する機会が少なく、自分や友達の作品を評価し合う活動が十分にできなかった。	・造形遊び、作品製作と鑑賞のセット型学習を行う。 ・作品をつくった後に必ず鑑賞を行い、よいところを伝え合うことで自己理解・他者理解を深める。 ・画一的なテーマ題材ではなく、描くものを自分で決めることのできる題材を設定する。	・作品をつくった後に鑑賞を行い、言語化することで自己理解・他者理解を深めることができたかどうかで評価する。
体育	・固定施設を使った運動遊びでは、きまりや方向、人数や動きなどを工夫して遊ぶ児童が多い。 ・水遊びでは、自分のめあてに合った練習の場や方法を選んで取り組んでいる児童が多い。児童によってばらつきがある。	・運動遊びでは、工夫したことや考えたことを伝える活動を取り入れていく必要がある。 ・友達と一緒に取り組む運動領域の経験が少ないため、友達と関わりながら運動する楽しさを味あわせていく必要がある。 ・場の準備や安全の確保などを、児童がすすんで行う場面を作る必要がある。	・どの授業でも運動の時間や回数を多くするように心がけ、運動量の確保につなげる。 ・きまりが簡単な鬼遊びやゲームをたくさん取り入れ、休み時間や放課後の遊びにもつなげ、体力の向上を図る。 ・きまりや方向、人数や動きなどを工夫している児童をICT機器で撮影し、そのよさを広げたり、事後の評価に生かしたりする。 ・場の準備や用具の扱い方についての指導を徹底する。	・めあてを理解し、すすんで活動できたかで評価する。 ・自分で工夫したことを、友達に言葉や動きを通して伝えることができたかで評価する。
道徳	・自分の意見を伝えたり、友達の発言を聞いたりして、様々な考えに触れている。 ・学習したことをすぐに行動に移そうとする意欲がある児童が多い。 ・感想を書く活動が少なかった。	・友達と伝え合う場があまり設定できていない。 ・教材文から離れて、自分のこととして考えるのが難しい。	・道徳の授業での言語活動を意識的に取り入れる。 ・ワークシートで、自分のことについて書く活動を積み重ねる。また、それらを交流する場を積極的に設ける。 ・自分の生活と関連できるよう、デジタル教材や身近な映像や写真を活用していく。	・展開後段の振り返りで自分のこととして考えられたかどうかで評価する。 ・ワークシートにこれからの自分について書くことができたかで評価する。